

# 英文学科とともに

船 木 満 洲 夫

佛教大学に私（英文学）が専任講師として入った昭和四十五年は、まだ一般教育しかなく、同じ年に就任の城野修一助教授（英語学）とともに英語の授業を担当した。四十九年に才野重雄教授（英文学）を迎え、五十年に英文学科が設置された。そして才野学科主任、船木事務主任で英文学科が発足した。同年十月に三留修専任講師（米文学）を迎えた。五十六年に通信教育課程に英文学科が設けられた。大学院は六十二年に修士課程、平成七年に博士課程が設けられた。当時の教務課長を連れて文部省に再三再四出かけ、博士課程が認可されるまで頑張ったことが思い出される。五十三年に森谷峰雄専任講師（英文学）、五十四年に甲元健雄教授（英文学）、五十五年に加藤芳慶助教授（米文学）、五十六年にロベルト・ラッタ専任講師（英会話）、島田美穂教授（英文学）、六十年に尾形敏彦教授（米文学）、六十一年に山川鴻三教授（英文学）、岡本庄三郎教授（英語学）、平成元年に市橋弘道助教授（英文学）、平成五年に萱嶋八郎教授（米文学）、古我正和教授（英文学）、平成六年に前川哲郎教授（英語学）、平成七年に川野美智子教授（英米文学）を迎えた。

才野重雄、甲元健雄、城野修一の各先生はすでに亡くなられている。三先生のお宅にお焼香をあげに行ったが、機会があつて、「甲元健雄先生を偲んで」という追悼の一文を、「佛教大学学報」（第三十六号）に船木は寄せた。改めて三先生のご冥福をいのる次第です。

「自分史」を書くようにとの依頼だったので、私個人のことを少し追加すると、東京で特許庁等官庁関係、NHK テレビ等放送関係、日本写真家協会での写真関係の翻訳に従事して得るところがあつた。佛教大学では、一般教育事務主任のあと、英文学科事務主任を四年間、英文学科主任・評議員を四年間、教

務部長を四年間、文学部長・大学院文学研究科長を二年間、通信教育部長を二年間、総合研究所長を二年間、それらを引き続き勤めた。なお平成十二年十二月、『形而上詩人と T.S.エリオット』によって、博士（文学）の学位を授与された。

七十歳で停年になったあと、十五年三月まで嘱託教授を二年間勤め、四月からは非常勤講師になる予定。

佛教大学がよいよ隆盛に向かう時期に、それなりに尽力できたことを嬉しく思っている。今日まで私が健康だったのは山登りのおかげだ。キリマンジャロ（タンザニア）、キナバル（マレーシア）、ウィルヘルム山（パプアニューギニア）、スイス・アルプス〔三峰踏破〕、玉山（台湾）、漢拏山（済洲島）の思い出は忘れられない。北海道の羅臼岳、斜里岳、十勝岳、大雪山、羊蹄山、利尻山、東北の岩木山、鳥海山、北アの白馬岳、唐松岳、五龍岳、鹿島槍ヶ岳、針ノ木岳、剣岳、薬師岳、燕岳、槍ヶ岳、穂高岳、西穂高岳、常念岳、蝶ヶ岳、南アの甲斐駒ヶ岳、仙丈ヶ岳、北岳、塩見岳、小河内岳、荒川岳、赤石岳、聖岳、上河内岳、光岳、奥秩父の金峰山、甲武信岳、日本三霊山と言われる富士山、立山、白山等。崩落で歩行禁止になる前の伯耆大山（ザイル使用）も思い出が深い。何度も登った山もあれば、縦走を楽しんだ山も多い。列挙したら切りがないが、気楽に行けるお勤め品として、中央線沿線の鳳凰三山、湖北の山本山から賤が岳を経て余呉湖に下るコースを記しておこう。湖北の呉枯ノ峰コースもいい（木ノ本から木ノ本へ）。私はロマンチック・コースと呼んでいる。途中、菅原道真ゆかりの菅山寺に下り、銅鐘（国の重文）を突くと谷間の森にこだまする。すぐわきの天満宮には、神秘的な池に大きな鯉が泳いでいる。

山で苦しくなったときは、「前へ、前へ」と自分に言いきかせるのが口ぐせで、それを山だけでなく日常苦しいときにも口ずさんでいる——「前へ、前へ」と。逆境を乗り越えることにこそ生きる価値は増すであろう。